

「戦略的な維持管理」

橋梁のアセットマネジメントについて

道路環境課

○アセットマネジメントとは

アセットマネジメントとは、道路資産を計画的・効率的に管理運用することです。

【国土交通省道路局のアセットマネジメントの定義】

道路を資産としてとらえ、道路構造物の状態を客観的に把握評価し、中長期的な資産の状態を予測するとともに、予算制約の中で、いつどのような対策をどこに行うのが最適であるかを考慮して、道路構造物を計画的かつ効率的に管理すること。

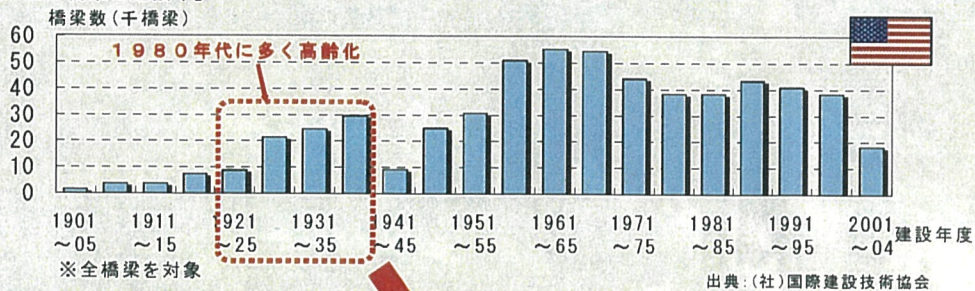
今回は、県で管理している橋梁のアセットマネジメントについて報告します。

○アセットマネジメントの必要性

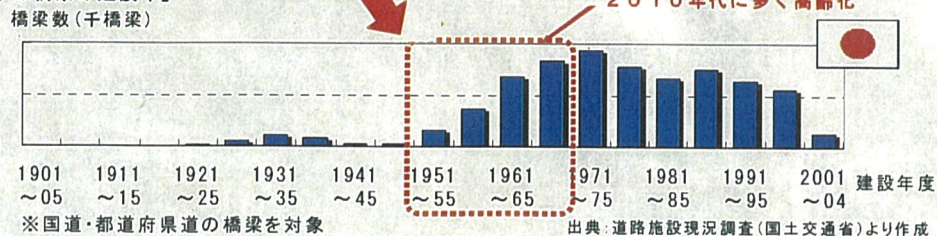
なぜ今、アセットマネジメントが必要と言われているかについて説明します。

次のグラフは、米国と日本の、橋梁の建設年のグラフとなっています。本格的な建設年が、米国が1920年代から始まっており、日本は1950年代からとなっています。

【米国の橋梁の建設年】



【日本の橋梁の建設年】



米国では、ガソリン税が据え置かれ、橋梁等の補修に十分な予算が投入されなかったため、1980年代から橋梁の倒壊等が発生し「荒廃するアメリカ」と呼ばれました。

日本は、アメリカに比べ30年ほど本格的な建設が遅れており、2010年代から橋梁の急速な高齢化が始まると予想されています。既に、全国各地で様々な損傷が発生し、通行規制を行っている橋梁もあります。

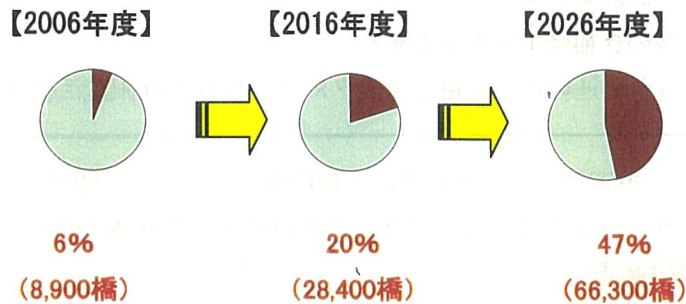
アメリカの例



日本の例



日本の50年経過橋梁の割合 ※全橋梁数は約14万橋(15m以上の橋梁)

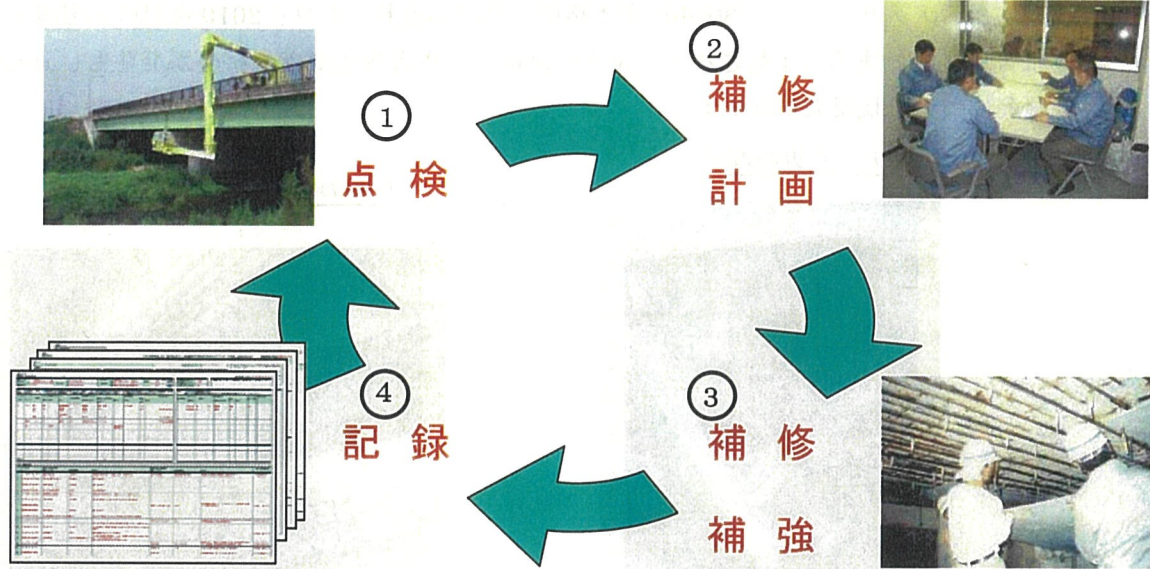


【アセットマネジメントのメリット】

道路施設の修繕及び架け替えに係る費用の縮減と施設の長寿命化を図り、地域の道路網の安全性・信頼性を確保する。

○アセットマネジメントのイメージ図

これを、図に表現しますと以下ようになります。



- ① 橋梁の点検を行い橋梁の現状の把握評価を行う
- ② その結果を受け、予算の制約の中で、いつどのような対策をどこに行うのが最適かを検討し計画を立案する
- ③ 計画に基づき補修工事を実施する
- ④ このような一連の流れを電子データにまとめ次の計画に活用する

ということがアセットマネジメントの内容となり、このサイクルを継続することで信頼できるデータを得ることができ、次の計画がより精度の高いものとなります。

○岩手県の取組状況

平成 17 年度から橋梁点検を開始しており、平成 18 年度にはマネジメントシステムを構築しました。

国では地方自治体の橋梁マネジメントの取り組みを支援するため、平成 19 年度から補助制度として橋梁の「長寿命化修繕計画策定事業」を創設しており、県としてもこの制度を活用しながら「橋梁のアセットマネジメント」の取り組みを継続し、より計画的・効率的な道路の管理が可能となるよう努めていきます。

橋梁点検 【1回/5年】	橋長 15m以上 (1,106 橋)	H17～19 (委託・直営)
	橋長 15m未満 (1,557 橋)	H20～22 (直営)
橋梁マネジメント システムの構築	諸元データの管理 (橋名・長さ・形式・建設年等)	H18～
	点検結果・補修履歴の管理	H19～
長寿命化修繕計画の策定		H19～21